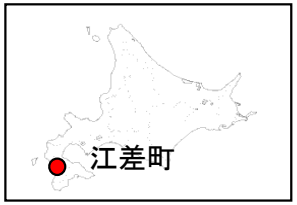
江差町地域公共交通活性化協議会　令和3年8月17日設置



概　要

江差町は、北海道の南西部、檜山振興局の南部に位置し、当町の中央には厚沢部川が流れ、北は乙部町、東は厚沢部町、南は上ノ国町と隣接しており、北西方向には日本海を挟んで奥尻町と対している。総面積は109.48㎢で、人口は6,982人（令和４年12月現在）に対し高齢化率39.8%の状況にある。

本町の公共交通は、函館バス（株）により５路線６系統の路線バスが運行されているほか、ハートランドフェリー（株）により本町と奥尻町を結ぶフェリーが１～２航路運航されており、加えて、本町独自の取組として福祉バス、スクールバス及び生涯学習バスを運行している。また、町内には１社のハイヤー事業者が立地しており、事前予約制で乗合タクシーも運行している。

一方で、これら公共交通ではカバーしきれない公共交通空白地域が市街地内にも存在しており、高齢化が高まる中で、高齢者をはじめとした安心で安全、かつ利便性の高い公共交通網の構築が求められている。

○地域公共交通の現況

・函館バス（株）：５路線６系統
・ハートランドフェリー（株）：１～２航路
・福祉バス：２路線　　・スクールバス：３路線
・生涯学習バス　　・事前予約制乗合タクシー

○地域公共交通の課題

・交通弱者等の町民の生活を支える地域内交通の確保
・地域内交通と地域間幹線系統バス路線との接続性の確保
・継続的に利用していただけるための情報提供機能等の強化
・町民等の生活圏・移動圏に即した広域的な移動の確保
・当町で実施している交通施策の最適化

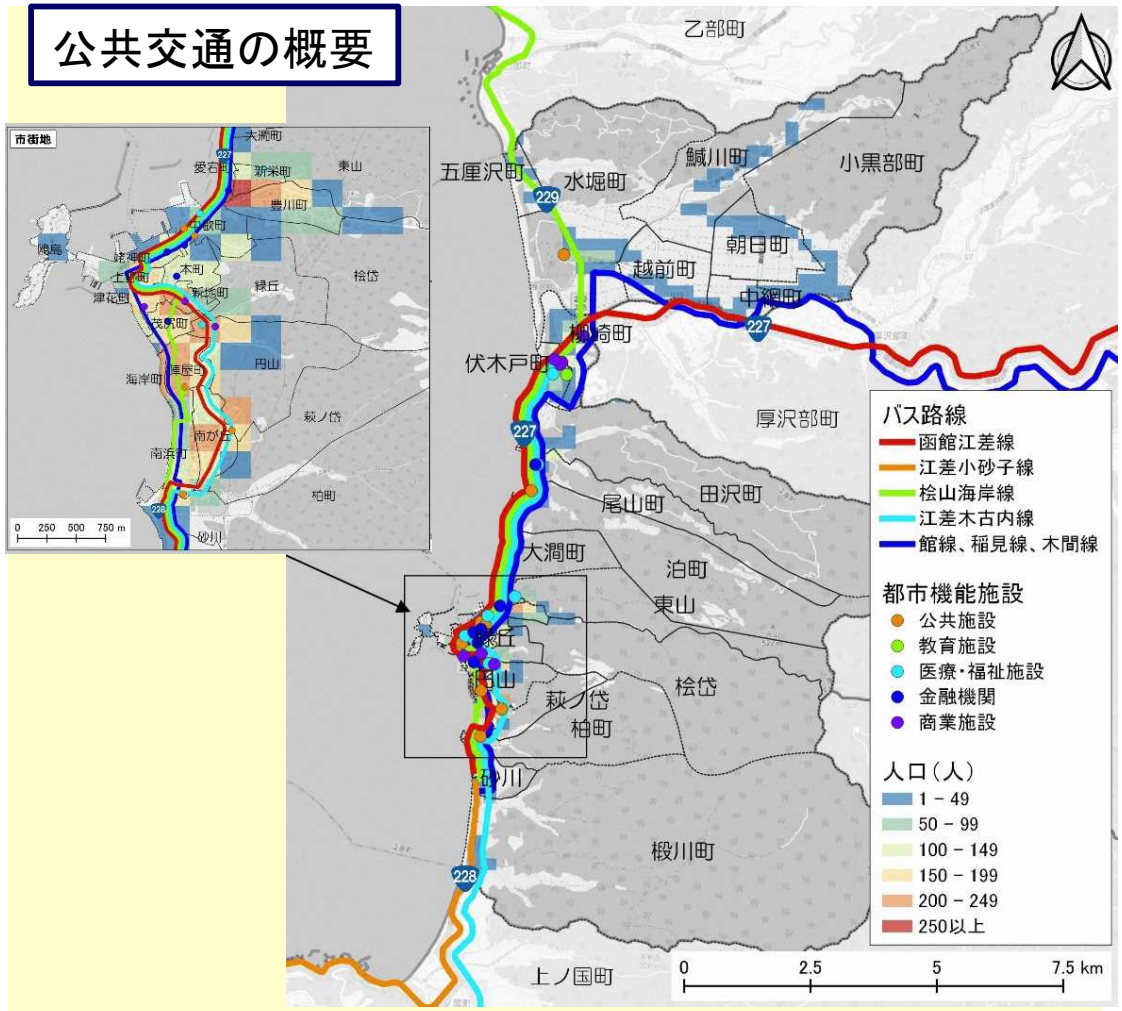
○調査の主な内容

・バス利用実態調査　・江差高校における通学状況に係るアンケート調査

○地域公共交通活性化協議会開催状況

令和４年８月31日　第１回協議会を開催
　・令和４年度江差マース実証実験 実施内容の協議など
令和４年10月17日　第２回協議会を開催
　・バス利用実態調査、江差高校通学アンケートの結果報告など
令和４年12月23日　第３回協議会を開催
　・江差町地域公共交通計画に係る重点課題、基本目標の協議など
※残り2～3回の協議会開催を予定

公共交通の概要



江差町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

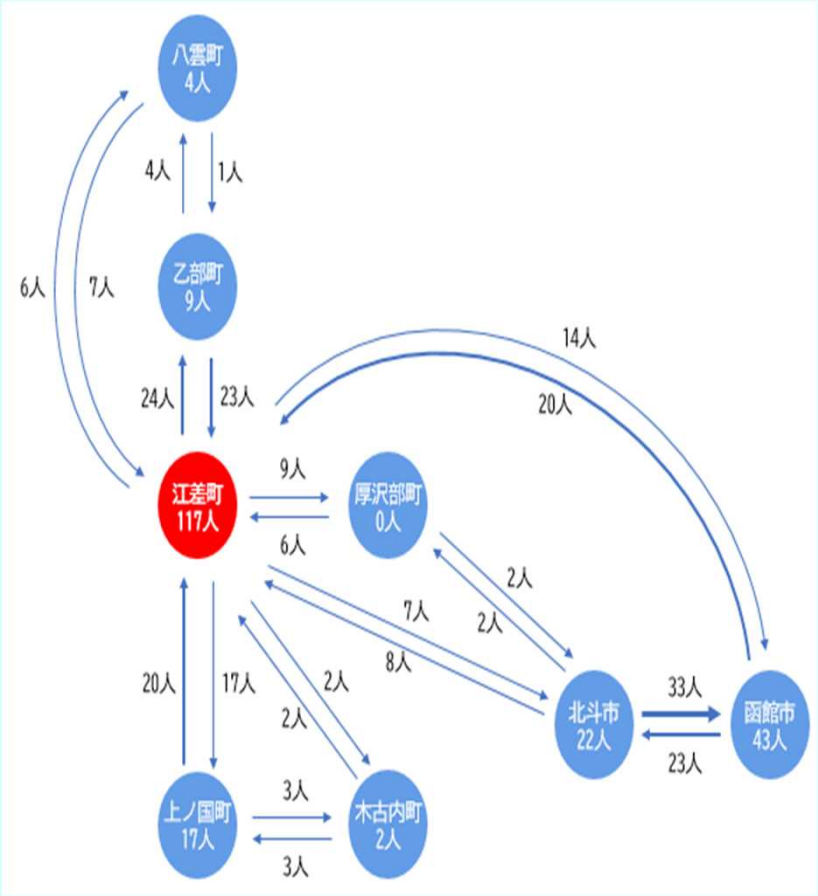
1．バス利用実態調査

・町内を運行する全バス路線の全便を対象としたバス利用実態調査を実施
・この結果から、バス利用者の移動区間及び移動目的を把握したことに加え、運行内容の見直し（廃止・運行区間の変更など）に向けた可能性を把握
※運行内容の見直しを行うことで、運転手や運行維持に係る経費などのリソースを他交通へ配分できる可能性を見出すなど、当町周辺における持続可能な公共交通網の方向性を検討
※今後、関係する自治体及び交通事業者と運行内容の見直しに向けた協議を実施

表　調査実施時の路線別利用者数

路線	起点	→	終点	便数	利用者数	学生追加
函館・江差線 610系統	江差ターミナル	→	函館バスセンター	5	201	3
	函館バスセンター	→	江差ターミナル	5		
江差・小砂子線 621系統	江差ターミナル	→	原口漁港前	3	14	0
	原口漁港前	→	江差ターミナル	3		
江差・小砂子線 622系統	江差ターミナル	→	小砂子	1	9	0
	小砂子	→	江差ターミナル	2		
桧山海岸線 624系統	江差ターミナル	→	熊石	6	132	40
	熊石	→	江差ターミナル	6		
江差・木古内線 631系統、632系統	江差病院前/江差高校前	→	木古内駅前	6	72	18
	木古内駅前	→	江差病院前/江差高校前	6		
館線 641～644系統	江差ターミナル	→	富里	2	7	2
	富里	→	江差ターミナル	2		
館線 661系統、662系統	江差ターミナル	→	東部館	2	13	0
	東部館	→	江差ターミナル	2		
稲見線 651～653系統	江差ターミナル	→	稲見	2	2	5
	稲見	→	江差ターミナル	2		
木間内線 663系統	上木間内	→	江差ターミナル	1	0	5

図　調査実施時の利用者の動き



※円内の人数は各市町内での乗降人数

江差町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

2．江差高校における通学状況に係るアンケート調査

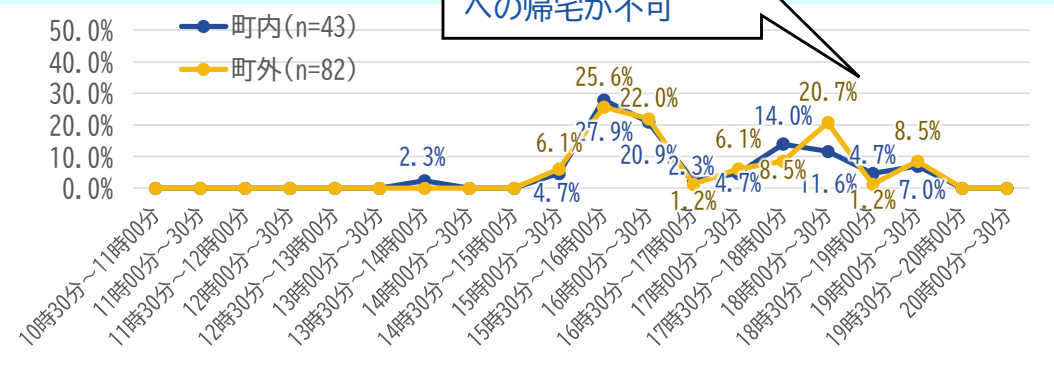
・バス利用実態調査の一環として、江差高校の生徒及び保護者を対象とした「通学状況に係るアンケート調査」を実施

・この結果から、「バス運行時間帯と通学時間帯（帰宅時）のミスマッチ」や「運賃助成等の学生等が利用したいと思える運賃体系」について、施策の検討に必要なニーズを把握

問4　帰宅時間（通常）

19時台に町内及び上ノ国方面、乙部方面への帰宅が不可

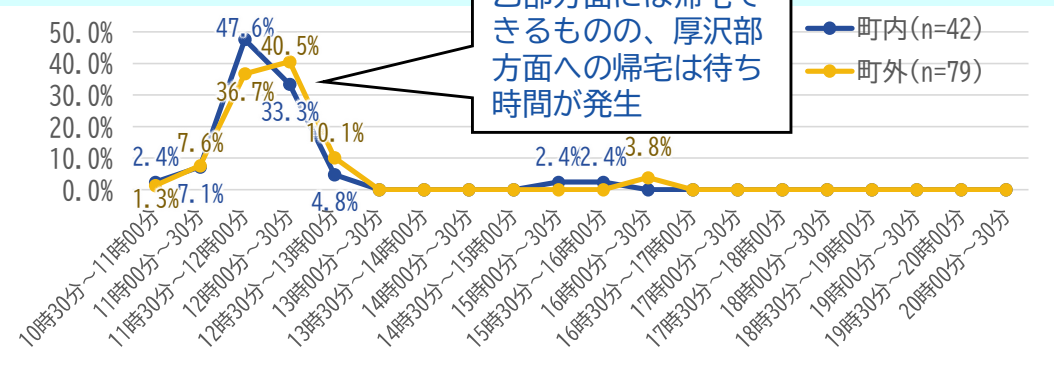
学校発時間

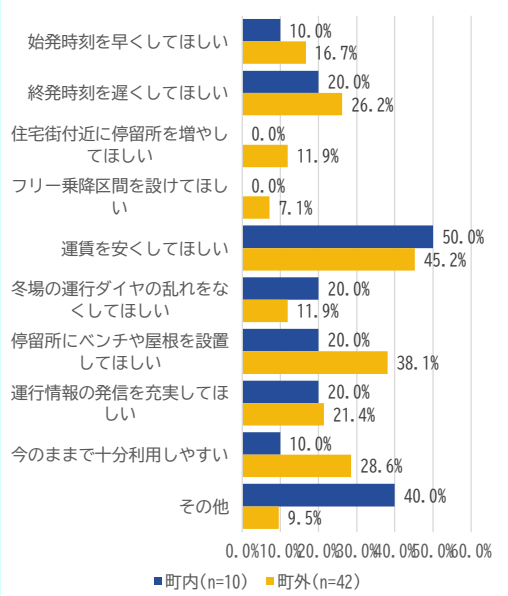


問4　帰宅時間（定期試験）

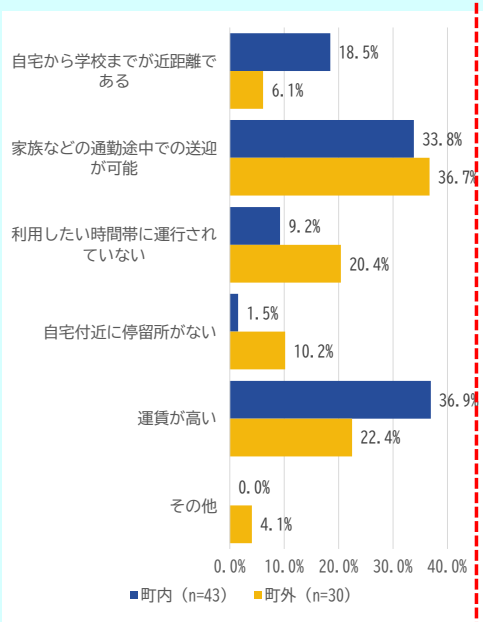
町内及び上ノ国方面、乙部方面には帰宅できるものの、厚沢部方面への帰宅は待ち時間が発生

学校発時間



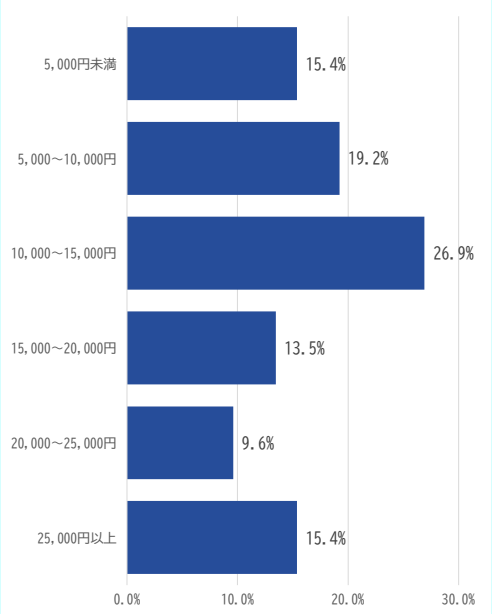


生徒用問9
公共交通の改善点



保護者用問4
公共交通機関を利用しない理由

1か月当たりの通学費用として、町内での通学にも関わらず、**1万円以上の費用負担**を行っている世帯も存在していることを把握



江差町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

目指す公共交通の姿

持続可能な暮らしを未来へ紡ぎ、みんなでつくる自分たちごとの交通

基本目標ⅰ　先進技術も活用した住民が使いやすい公共交通形態の導入確保

- ⅰ-事業１：当町交通施策の最適化に向けた見直し
- ⅰ-事業２：函館バス路線や当町交通施策の見直しによる輸送資源の確保
- ⅰ-事業３：江差マースの本格運行及び継続的な運行に向けた取組の実施
- ⅰ-事業４：福祉有償運送事業の継続化に向けた検討・協議の場づくり

基本目標ⅱ　地域内交通と広域交通の接続拠点の創出

- ⅱ-事業１：交通・交流拠点の創出
- ⅱ-事業２：地域内交通と広域交通の接続性の確保

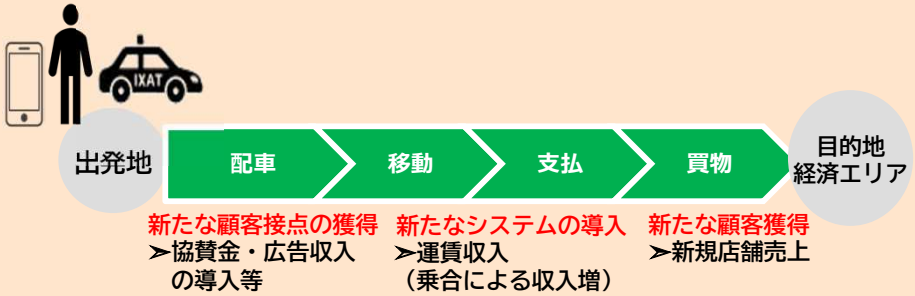
基本目標ⅲ　公共交通の見える・魅せる化に向けた利用促進策の実施

- ⅲ-事業１：ICTに慣れていただける環境づくり
- ⅲ-事業２：地域内交通の適切な運行情報の提供
- ⅲ-事業３：公共交通を利用したいと思っていただける機会の創出

基本目標ⅳ　町民等の広域的な移動機会の確保に寄与する連携策の実施

- ⅳ-事業１：【再掲】当町交通施策の最適化に向けた見直し
- ⅳ-事業２：【再掲】函館バス路線や当町交通施策の見直しによる輸送資源の確保
- ⅳ-事業３：【再掲】交通・交流拠点の創出
- ⅳ-事業４：【再掲】地域内交通と広域交通の接続性の確保
- ⅳ-事業５：江差町地域公共交通活性化協議会における事業モニタリングの継続的実施
- ⅳ-事業６：（仮称）道南地域公共交通計画との連携

「江差マース」における収益循環モデル



江差マース事業における収入増加分と住民利便性の向上の可能性を
これまでの実証事業から取得したアクティビティデータを参考に検証

江差町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

【現在検討中の評価指標（案）】

基本目標ⅰ　先進技術も活用した住民が使いやすい公共交通形態の導入確保

- 評価指標１：江差マースの利用者数
- 評価指標２：江差マースの収支率
- 評価指標３：江差マースに係る収益循環の金額
- 評価指標４：当町の交通施策に対する公的資金投入額
- 評価指標５：福祉有償運送事業の利用者数

基本目標ⅱ　地域内交通と広域交通の接続拠点の創出

- 評価指標６：接続拠点の創出
- 評価指標７：交通・交流拠点としての機能強化

基本目標ⅲ　公共交通の見える・魅せる化に向けた利用促進策の実施

- 評価指標８：江差マースに関する勉強会等の周知活動の実施数
- 評価指標９：【再掲】交通・交流拠点としての機能強化
- 評価指標10：地域公共交通に関する江差高校との連携回数

基本目標ⅳ　町民等の広域的な移動機会の確保に寄与する連携策の実施

- 評価指標11：江差高校生のバス通学割合
- 評価指標12：【再掲】当町の交通施策に対する公的資金投入額
- 評価指標13：江差町地域公共交通活性化協議会の開催回数

※計画推進状況を考慮し、評価指標等を適宜見直すことを検討

●事業実施の適切性

計画通りに事業は適切に実施される予定

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

・事業は、計画どおり実施されている。
・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
・昨年も調査事業を活用されていることもあり、様々な意見や課題について検討を重ねてこられたと思われるため、課題等を反映した地域公共交通計画をぜひ策定いただきたい。